

# 「大規模土砂移動現象に関するフィールド討論会in神通」を開催

～河川部 河川計画課・六甲砂防事務所～

近畿管内では事例が少ない土砂移動が活発な北陸地方整備局神通川水系砂防事務所管内の荒廃した溪流を対象に、現地観察・討論を行うことにより、土砂災害後の現地調査等において、土砂生産・土砂移動現象を理解する上で必要となる着目点や考察のポイントなどについて議論した。

また、外部講師として京都大学防災研究所 宮田助教(土砂災害研究会アドバイザー)より、大規模土砂移動現象および穂高砂防観測所での研究を紹介いただき、実際の観測施設見学を行い現地討論を行った。

## 概要

日時：平成28年10月12日(水)～10月13日(木)

場所：岐阜県高山市 神通川水系 平湯川・鎌田川流域

講師：京都大学防災研究所

宮田助教(土砂災害研究会アドバイザー)

参加：近畿地方整備局技術スペシャリスト(土砂)※ 4名  
六甲砂防事務所 4名  
神通川水系砂防事務所 4名

※技術スペシャリストは、技術の研鑽、伝承を目的に技術系職員で構成しています。

(1日目：京都大学防災研究所穂高砂防観測所)

- ・大規模土砂移動現象および観測所での研究の紹介
- ・(現地踏査)ヒル谷・足洗川での土砂観測施設等

(2日目：神通川水系砂防事務所管内視察)

- ・資料館「奥飛騨さぼう塾」施設見学
- ・過年度に崩壊があった外ヶ谷の現状視察
- ・道観松砂防堰堤視察(魚道・公園整備)
- ・白谷砂防堰堤群整備状況視察

穂高砂防観測所では、焼岳での土砂流出の過程・観測状況の説明、また新たな計測手法として、センサープロブを用いた流入土砂量の連続観測手法や縦型ハイドロフォンの説明があり、それらの施設見学も行いました。さらに、各溪流での土砂生産の活発さによって河床状態に差があることを現地でも確認しました。

神通川事務所管内では、過年度に2度の大きな崩壊が発生している外ヶ谷を視察し、砂防堰堤群の整備により山脚が安定し、緑豊かな渓谷を取り戻している状況を確認しました。その後、現在も事業が行われている白谷砂防堰堤群で整備状況を確認しました。白谷では土石流がおよそ2年に1回程度の頻度で発生しており、今後上流部の堰堤を整備する際は、無人化施工を予定しているとのことでした。土砂生産の著しい白谷では、航空レーザ測量により土砂移動量を把握しているが、高額になることが課題であり、今後はUAVを用いた計測により、安価で継続的な観測が可能になるのでは、といった意見交換もしました。

## 【お問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局  
河川部 河川計画課



〒540-8586 大阪市中央区大手前1-5-44  
大阪合同庁舎第1号館 TEL:06-6942-1141

## 穂高砂防観測所での説明



土砂流出の少ない  
ネボリ谷の状況



## ヒル谷での流入土砂観測状況



センサープロブを用いた土砂量の観測

